

## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名： ラスピカ  
 会社名： 株式会社 タセト  
 住所： 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1  
 担当部門： 化学品技術部  
 電話番号： 0466-29-5638  
 FAX番号： 0466-29-5630  
 緊急連絡先及び電話番号： 同上  
 推奨用途及び使用上の制限： ステンレス鋼等のもらい錆除去剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性： 引火性液体 区分外  
 健康有害性： 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2  
 眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性 区分2A

\* 記載のない物理化学的危険性、健康有害性、環境有害性は、分類対象外か分類できない。

## ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

警告

危険有害性情報：

皮膚刺激  
強い眼刺激

注意書き：

【安全対策】

ミスト／蒸気の吸入を避けること。  
取扱い後は手をよく洗うこと。

必要などき以外は、環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

子供の手の届かないところに置くこと。

容器を密閉して、涼しく換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って産業廃棄物として処理すること。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分及び含有量：

化学名（成分名）	濃度 (wt%)	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	PRTR法 <sup>1)</sup>
水	70～80	7732-18-5	—	非該当
有機酸アンモニウム塩	20～30	5421-46-5	非公開	非該当
添加剤	<1	非公開	非公開	非該当
防腐剤	<1	非公開	非公開	非該当

危険有害成分：

I) 化学物質排出把握管理促進法

非該当

II) 労働安全衛生法 57条の2

通知対象物質：なし

#### 4. 応急措置

吸入した場合:	直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合:	直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。 多量の水と石鹸で洗う。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。
眼に入った場合:	こすらずに、水で数分間注意深く洗い、医師の手当てを受ける。 コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合:	直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時又は身体に異常を感じる時は、医師の治療を受ける。

#### 5. 火災時の措置

消火剤:	散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤:	棒状放水
火災時の措置に関する 特有の危険有害性:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置:	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上から作業し、漏出した場所の周囲には、関係者以外の人の立ち入りを禁止する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項: 封じ込め及び浄化の方法・機材:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 危険でなければ漏れを止める。 漏洩物をウエス等で吸収し密閉できる空容器に回収する。 回収した漏洩物は、後で適正に廃棄処分する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
二次災害の防止策:	全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 ミスト、蒸気の発生を防止する。 強酸化剤との接触を避ける。
局所排気・全体換気: 安全取扱注意事項:	作業中、蒸気やミストが発生するので、換気、局所排気を用いる。 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 ミスト／蒸気を吸入しないこと。 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。 容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしないこと。
接触回避: 衛生対策:	「10. 安定性及び反応性」を参照。 取り扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
保管 技術的対策: 安全な保管条件:	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 容器は直射日光や錆の発生しやすいところを避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い場所で保管する。

混触危険物質:	混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
安全な容器包装材料:	強酸化剤 ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	設定されていない
許容濃度(ばく露限界値)	
日本産業衛生学会(2015年版):	設定されていない
ACGIH(2015年版):	設定されていない
設備対策:	作業者が直接ばく露されないように、できるだけ密閉化した設備又は全体換気装置、局所排気装置を設ける。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具 呼吸用保護具:	換気設備が不十分な場合は呼吸器保護具(防じんマスク、簡易マスク)を着用する。
手の保護具:	保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製等)を着用する。
眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。
皮膚及び身体の保護具:	長袖作業衣を着用する。必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	無色透明液体(淡紫色の場合あり)
臭い:	硫黄臭
pH:	6~8
融点・凝固点:	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲:	データなし
引火点:	水溶液であり、引火しない。
燃焼又は爆発範囲:	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度(空気 = 1):	データなし
比重(密度):	1.1~1.2
溶解度:	データなし
n-オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度(発火点):	データなし
分解温度:	データなし
粘度:	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	通常取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性:	強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件:	日光、熱
混触危険物質:	強酸化剤
危険有害な分解生成物:	熱分解により、窒素酸化物、硫黄酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口):	有用な情報がなく分類できない。
急性毒性(経皮):	有用な情報がなく分類できない。
急性毒性(吸入:気体):	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気):	有用な情報がなく分類できない。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト):	有用な情報がなく分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	皮膚刺激性がある。(区分2)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	眼に入ると刺激があり、放置すると粘膜が侵される。(区分2A)
呼吸器感作性:	有用な情報がなく分類できない。
皮膚感作性:	有用な情報がなく分類できない。
生殖細胞変異原性:	有用な情報がなく分類できない。
発がん性:	有用な情報がなく分類できない。
生殖毒性:	有用な情報がなく分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	有用な情報がなく分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 有用な情報がなく分類できない。  
 吸引性呼吸器有害性: 有用な情報がなく分類できない。

## 12. 環境影響情報

生態毒性: 水生環境有害性 (急性) 有用な情報がなく分類できない。  
 水生環境有害性 (長期間) 有用な情報がなく分類できない。  
 残留性・分解性: データなし  
 生体蓄積性: データなし  
 土壤中の移動性: データなし  
 オゾン層への有害性: 有用な情報がなく分類できない。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。  
 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共  
 団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告  
 知の上処理を委託する。  
 汚染容器及び包装: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基  
 準に従って適切な処分を行う。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報: IMOの規制に従う。  
 航空規制情報: ICAO/IATAの規制に従う。  
 UN No.(国連番号): 非該当  
 Proper Shipping Name(品名): —  
 Class(国連分類): —  
 Packing Group(容器等級): —

### 国内規制

陸上規制情報: 消防法ほか法令の規制に従う。  
 海上規制情報: 船舶安全法の規定に従う。  
 航空規制情報: 航空法の規定に従う。  
 緊急時応急措置指針番号: —  
 特別の安全対策: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように  
 積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法: 表示対象物質: 非該当  
 (法第57条、施行令第18条第1号別表第9)  
 通知対象物質: 非該当  
 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
 有機溶剤中毒予防規則: 非該当  
 特定化学物質障害予防規則: 非該当  
 消防法: 非該当  
 毒物及び劇物取締法: 非該当  
 化学物質排出把握管理促進法:  
 (PRTR法) 非該当  
 水質汚濁防止法: 有害物質: 有機酸アンモニウム塩を含む。

## 16. その他の情報

### 参考文献等:

- 1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
- 2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 4) JIS Z 7252:2014「GHSに基づく化学品の分類方法」
- 5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 6) 許容濃度の勧告(2015)、日本産業衛生学会

- 7) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices、ACGIH(2015)
- 8) (株)タセト 社内資料(原材料SDS)

---

#### 記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者に提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。